

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 28日

所属・職名	商経学部 教授	氏名	森 久人
研究課題	フェアトレードタウンにおける商業施設の可能性 ——関係性マーケティングの視点から——		
研究キーワード	フェアトレード、商業施設、環境都市、関係性マーケティング、ライフスタイル	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>初期段階では先行研究、事例分析に時間を費やした。この分野の研究成果は多くなく、報告やそれをまとめた著書が示されている。先行事例をもとに都市を訪問し調査とインタビューを行った。静岡市を訪れた時は推進者にインタビュー、逗子市は調査をしやすいと考えたが一度しか訪れることができなかった。熊本市や福岡市の事例についても興味深い報告内容があった。海外では、フェアトレードタウンとはいえないが、環境モデル都市として米国ポートランド市を取り上げた。今回訪問の機会は得られなかったが、訪問経験と成功事例の文献レビューを通じて多くの情報を得ることができた。</p> <p>ネットワークが進化する中で、魅力ある都市と商業施設と人をむすぶ関係性は生活者の質の向上の核となる。すでに実行に移しているフェアトレードタウンを見ることで、支援している市民、行政、企業などの啓蒙活動を確認できた。さらに積極的な関与のたまに関係性マーケティングを強化することが求められる。フェアトレードタウン運動を通じて商業施設と消費者の変化を知ることは重要である。市川市、同じく大学を有する習志野市におけるフェアトレードタウンの可能性をさぐった。この調査段階はなかなか実行に移すことがむずかしい状況であった。具体性のある方法に結びつけることが困難であり、消費者の日々の拠点である都市の機能と快適性、ライフスタイル、自然環境からさらに研究が必要である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>現時点では特に行っていない。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>図書に関しては、直接テーマにかかわるものを中心に関連領域も含めて購入した。静岡におけるインタビュー調査等における旅費は、他のプロジェクトとの関係で活用できたので直接使用しなかった。さらに逗子市以外の他の都市訪問でのインタビューは実現しなかった。調査のために必要な機器を若干購入した。分析ツールとしてのパソコンソフトを購入した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし。</p>			